

徳島が生んだ伝統工芸「阿波正藍しじら織」 明治30年創業の匠の技を未来へ

古くから徳島で栽培されてきた阿波藍を使い、シボという独特の凹凸を織り上げる綿織物「阿波正藍しじら織」。優れた風合い、軽さ、肌触りのよさで庶民の装いを彩ってきた。創業明治30年。127年を迎える時が育んだ、経済産業大臣指定・国の伝統的工芸品。古きを守りながら、新しい価値を求め続けていく。



徳島の伝統品「阿波正藍しじら織」 染色工程改善による生産強化計画

1. 取り組みの経緯

「阿波正藍しじら織」伝統工芸士認定3社では分業が多い中、当社は染色・織・仕上げまで一貫生産であり、取引先の要望に迅速に応えることのできる体制である。また、108色という染めの色数を誇っている。しかし近年、自然志向・本物志向の消費動向により、多色生地への納品増量とコストダウンの要望が高まっており、これに対応するために染色工程の体制強化を計画した。

2. 実施内容

現有染色機では、かきまぜの力が弱く回転スピードが一定にならないため、染料が糸に均一に浸透しにくかった。加えて、目視による温度管理であるため、吸着が一定にならない。このため色ムラによる不良が10%程度発生していた。また、現有機の20kgというキャパではオーダーへの対応が難しい。これらの課題を解決すべく、30kgの能力の高温高圧汎用染色機VPV-600型の導入を図った。

3. 取り組みの成果

ポンプ回転力の向上、攪拌スピードと時間のプログラム制御や自動温度調整により、不良率を3%程度にまで改善。染色機が一機増えたことで、需要の多い藍色系統とそれ以外の色のライン分離が可能になり、多色生地生産に必要な8色の染色時間が半減、生産量増とコストダウンにつながった。染め色の多さとデザイン性を強みとした提案力で、他社との差別化がより明確に図れるようになった。

事業者から一言 阿波藍としじらを世界へ発信

新型の染色機の導入により、生産力の強化とコストダウンが実現。作業の安全性も高まり、従業員の負担を軽減することができました。阿波藍としじらの伝統の素晴らしさはそのままに、サステナブルな伝統工芸ブランドとして、世界に向かって新しい価値を提案していきたいと考えています。



代表社員
長尾 伊太郎氏



▲導入した高温高圧汎用染色機



▲たて糸の長さ、幅、柄、密度、張力などを整え整経機に巻き取る



▲織布室には小巾、広巾、種々の織機が並ぶ

長尾織布合名会社

〒779-3121
 徳島県徳島市国府町和田字居内189-2
 Tel.088-642-1228 Fax.088-642-1229
 ●代表社員 長尾 伊太郎
 ●設立年月日 昭和8年1月20日
 ●資本金 1,500万円
 ●業種 繊維工業
 ●従業員数 18名
 ●ホームページ <https://awa-shijira.com>